

5月29日 松江・米子での「野党合同演説会」での山下副委員長の訴え

5月29日(土)に島根県松江市と鳥取県米子市でそれぞれ参院選勝利に向けた「市民+4 野党合同演説会」が開催されました。(写真)

その中で日本共産党を代表した山下芳生副委員長の「訴え」は他党支持者を含めて多くの聴衆の共感を呼びました。その全文を紹介します。

.....



共産党副委員長の山下芳生でございます。昨日は首相のお膝元の山口県で、民進党の近藤昭一幹事長代理、社民党の吉川はじめ政審会長と並んで演説してまいりました。そして今日は民進党の枝野幸男幹事長、社民党の山本誉県連副代表と並んでおります。そしてここに全国のママの会の代表西郷南海子さんも駆け付けてくださいました。来る参議院選挙は、野党と市民が力を合わせて安倍政権を打倒する日本の歴史で初めての選挙となります。山陰地方で福島浩彦さんを何としても勝たせていただいて、山陰から日本

を変える戦いにしようではありませんか。

2月19日5野党の党首が会談をいたしまして、4点について合意しました。一つは安保法制廃止・集団的自衛権行使容認の閣議決定撤回を共通の目的とする。二つ安倍政権の打倒をめざす。三つ現与党およびその補完勢力を少数に追い込む。そして四つ国会対応や国政選挙などあらゆる場面で協力を行う。こうした画期的な合意ができました。

なんでこれまでバラバラだった野党が心ひとつに表すことができたのか、それは昨年来、暑い日も寒い日も、雨の日も風の日も、雪の日も、「安保法制反対、野党はがんばれ野党は共同」と声を上げ続けてきた国民市民のみなさんの世論と運動があったからにはほかなりません。こうした皆さんの声私たちが背中を押し、野党の間にあった壁を壊してくれました。ありがとうございます。

2月の党首合意と野党の共同はどんどん加速しております。まず、参議院選挙、全国で32ある1人区ですでに30で野党統一候補が決定いたしました。あと2つもぜひやりたいと思います。そしていつ解散・総選挙があってもいいように衆議院のできる限りの協力をおこなうことが5月19日の党首会談で合意されたことを報告しておきます。

そして、政策が大事ですね。安倍政権打倒で一致しているわけですから、安保法制の他にも野党の政策を広げようじゃないかと党首で合意し、来年4月からの10%増税に4野党が反対に合意した。安倍首相は増税を2年半延期する意向を発表したが、理由がふるっている、世界経済が悪くなったからだというんです。ちょっと待ってくれ、世界で一番経済が悪いのはこの日本じゃないか。なんでそうなったか、アベノミクスではごく一握りの大企業と富裕層が潤ったけども、働く人の実質賃金は4年連続マイナスですね。こうしたことを繰り返してきたから経済が悪くなったんです。タックスヘイブンが世界中で話題になっている。課税逃れが問題になっている。ついでこないだ日本の大企業と大金持ちがカリブ海に浮かぶケイマン諸島に74兆円も資産を投資していた。

私たちは儲けてはダメだといってるのではない。儲けたら儲けた場所でちゃんと税金を払ってちょうだいと、当たり前のことではないでしょうか。そうすれば消費税の増税なんかなくても財源は出来ると考えています。不公平な税制は改革を、税金の集め方と使い方を民主的に変えよう。これを枝野さんや社民党の皆さんと一致できるんじゃないかと、引き続き頑張っていきます

ので後押しをよろしくお願いします。島根でも野党と市民の共闘が大きく前進しました。市長を3期つとめられ、大学でも教鞭をとられた地方自治のエキスパート、福島浩彦さんが安保法制廃止と共に、地方を切り捨てるアベノミクスでは山陰はよくならないと、参議院選挙に挑戦する市民と野党の要請にこたえる決意をさせていただきました。ありがとうございます。

福島さんの政策いいですね。なんといっても安保法制、戦争法廃止、立憲主義、民主主義の回復、安倍政権打倒、これがドーンと座っています。この間、野党の共闘がここまで前進した、私と枝野さんがカラオケルームで一緒に唄っていた、ここまで仲良くなったのは、この一点があったからです。だてに飲んで唄ったりはしていません。これまでの歴代自民政権でさえ、そこはわきまえていた。たとえ多数を持っている政権党であっても憲法の枠内で政治を行うことが国民から負託されているのであって、憲法を無視した政治はどんな政権であってもやってはならない、これが立憲主義ではないでしょうか。中曽根さんだって小泉さんだってここは守ってきたんです。ところが安倍政権はいっぺんの閣議決定でひっくり返してしまいました。あれこれの政策とは次元の違う大問題です。政府が憲法を無視しても平気、こんなこと許していたら何が起こるでしょう。その行きつく先は独裁政治にほかならない。今、問われているのは民主主義を大切に、憲法に基づくまともな政治を取り戻すのか、それとも勝手に憲法を踏みこむ独裁政治を許すのか、それが問われているのではないのでしょうか。そんな時にあれこれの理由をあげて野党がバラバラになっていたのでは、もう国民の期待に応えられない。ここは一つガッチリ、スクラムを組もうじゃないかと、これまでのいきさつを乗り越えて一緒にたたかうことにしたものであります。引き続きこの共闘を広く強いものにするために頑張りたいと思います。

集団的自衛権というのは自衛という名前がついていますが、国民の命を守ることで、日本の国土を守ることでありませぬ。同盟国が世界中で戦争をはじめたら日本の自衛隊が出かけて行って一緒に武力攻撃をすることです。ベトナム戦争、イラク戦争、アメリカの戦争は全部、海外での侵略戦争ですね。そこに自衛隊が出かけていくっていうのです。戦場に行くのはだれか、安倍さんは絶対に行かない大臣も行かない、自民党・公明党の国会議員だつて行きませぬよ。行くのはいつだって若者です。若者を海外の戦場に送るな。福島さんは人道支援と平和外交こそ大切だと言っておられます。その通りですね。アジア近隣諸国とのトラブルを戦争で解決することはできません。大惨害がまってるだけですからね。若者を戦争に送るな、平和外交こそ一番、その皆さんの願いを福島浩彦さんに託してください。よろしくお願いします。候補者も政策もバッチリですから、あとは勝利をめざして頑張るだけです。これが一番大事ですから何としても勝つために日本共産党も他の野党のみなさんと一緒にできることは何でもやる、できないことにも挑戦する、そのために頑張ります。

以上